あいだのすみっこ不定期漫遊連載 114回

「見知らぬ島へ：竹久夢二の夢とあこがれ」
竹久夢二学会の旗揚げに寄せて

稲賀 繁美（いなが しげみ／国際日本文化研究センター，総合研究大学院大学）

ふるさとの山をいでしより
旅にいくとせ
ふりさけみれば涙わりなし。

ふるさとの母こひしきか
いな
ふるさとの妹こひしきか
いな。
うしなひしむかしのわれのかなしさに
われははくなり。

うき旅の路はつきて
あやめもわかぬ岬にたてり。
すべてうしなひしものは
もとめてもせんなし。
よしや
見知らぬ島の
わがすがたこそは
あたらしきわがこころなれ。

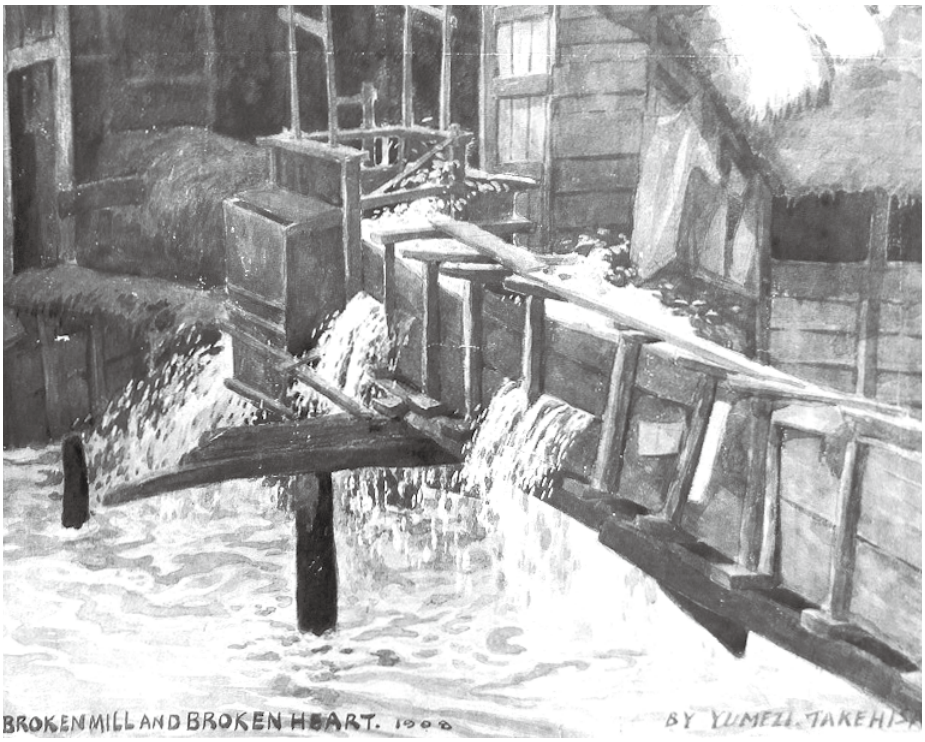
いざやいざ
見知らぬ島へ。

「見知らぬ島へ」は『どんたく』に収められた歌のなかで，人気投票1番となった。夢二自薦の2作品と自分の推奨作とが一致した読者には景品を進呈すると巻末広告に告知されていた。『どんたく』を購入した読者は，巻末綴じ込みの葉書を切り抜いて一銭五厘の切手を貼って投函することで投票に参加することができた。千通近い回答のうち，3割が「見知らぬ島へ」を推奨していたという。夢二その人の愛唱歌も，一世を風靡した「宵待草」ではなく，ほかならぬ「見知らぬ島」だった――。「夢二研究の現在：世界にむけて」と題されて，岡山大学で開催された国際シンポジウムでの高階秀爾氏による指摘である*1。

■1　京都府立図書館での展覧会写真　1913

新興メディアのなかの竹久夢二

この『どんたく』が刊行された大正2年（1913）には京都府立図書館で夢二の展覧会が開催された。■1 折から隣接する市立美術館を会場として文部省展覧会，通称「文展」が開催されたが，それよりも夢二の個展のほうが人気を博したとの世評が知られる。官展ではなく，広告産業や出版業と密接に連動した時代の潮流のなかで，夢二は時代の寵児となっていった。



■2　Broken Mill, Broken Heart, 水彩　1908

この夢二人気の背景には，日露戦争期からその後の私製絵葉書の流行がある。そもそも私製絵葉書が認可されたのは明治33（1900）年3月。それ以前には官製葉書に絵を刷るという販売方式だった。日露戦後，「日支親交」を謳い文句に，早稲田実業専門学校には中華民国から1,500人ほどの留学生が受け入れられた。その門前に当たる鶴巻町の「つるや」という小さな絵葉書店の女主人にして看板娘，岸たまきのところに夢二が早慶戦のスケッチを持ち込んだのが，二人の馴れ初めという。たまき自身が「夢二の想出」（『書窓』第6巻6号，昭和16年7月）に残す証言である＊2。当時の雑誌巻頭には切り取り線のついた絵葉書が口絵の代わり綴じこまれるのが流行だったという。また雑誌には投書欄によって読者に紙面を提供しつつ，定期購読者を確保する方策も取られていた。

夢二の水彩画には《Broken Mill, Broken Heart》（1908）が知られる。■2 神田上水の洪水で壊れた水車を写生したものといい，東京美術学校の教授，岡田三郎助に見せたが，三郎助は美術学校に入学してはかえって才能をつぶすことになると，入学を勧めなかったという逸話がいまに残る。体よく推薦を断られた格好だが，自らもポスター図案に関わっていた三郎助は，夢二の才能を見抜いていた，ともいえる。とかく現在から回顧すると見極めにくいが，当時絵心に恵まれた才能にとって，大正初期のこの時代，どのような人生行路が待ち受けていたのだろうか。

高階氏は同じ講演で鏑木清方の場合に言及した。『こしかたの記』にもあるように，清方は日清戦争後の絵草紙，浮世絵の急速な退潮と，日露戦争後の衰亡を身近に見て育った世代である。師匠の水

■3　雪の江戸川　1911

■4　室津懐古

野年方はこの世相の推移のなかで浮世絵師から本画家への脱皮に成功したが，小林清親のようにそのあたりで画業が断絶した絵師も少なくない。永井荷風は夢二より5歳年長だが，洋行帰りの新帰朝者として，かつて失われた江戸の情緒を惜しみつつ，またそれに観応する感性を喪失した洋行帰りの自らの身を嘆いた。それを傍目に眺めた夢二の世代にとっては，江戸の情緒は，追憶のなかに改めて夢想される，なかば失われた過去であり，それが大正の情緒の基調をなした。■3 清親の復権に関与した木下杢太郎もまた，夢二と同世代である。

夢二の人物風景にはしばしば港が描かれる。夢二が播州室津の港を好んだことはよく知られる■4が，そこには，鉄道の発達とともに時代から置き去りにされた宿場，「疲れ切ったような，静かな物悲しいひびきをもったみなと」への哀惜が著しい。日本橋呉服屋町に大正3年秋に，たまきを主人として夢二が開く絵草紙屋は「港屋」と号とする■5。運河と蔵との水運の河岸は，昭和初期の「出島」「灯篭流し」などの《長崎六景》に至る

■5　港屋（「江戸呉服橋　の図」部分）　1914

波止場の郷愁へと引き継がれる。運河や港が頻繁に登場するのはなぜだろう。1歳年下にあたる北原白秋は，九州は柳川という水郷の街の出身であり，若くして南蛮趣味の『邪宗門』の世界を唄った。白秋の向日性は，夢二の内向性とは対照的だと言われる。とはいえ夢二にあっても，見知らぬ島への憧れは，南蛮の異国情緒や失われた江戸の賑わいと，解き難く絡まっていた。

地方ネットワークの開発

港屋が開店したのは大正3年秋のことだったが，その年の先だつ春に，夢二はたまきを伴い，岡山に帰郷し展覧会を催している。その詳細については，荒木瑞子氏から一次資料に基づく発表を得た。夢二の国内旅行の足跡を簡単に追ってみよう。大正5年には秋田雨雀，そしてロシアの盲目詩人エロシェンコとともに水戸へ講演しているし，翌大正6年にも，次男不二彦，葛西彦乃とともに金沢の湯涌温泉に遊んでいる。大正7年には京都で二度目の個展，「竹久夢二抒情画展覧会」を開催している。その後の九州旅行の折，別府で結核を発病した彦乃は，大正9年に25歳で死去する。その翌年の大正10年にも，傷心の夢二は福島から酒田へと旅行し，旅先で席画の機会などを得て，地方にも少なからず作品を残している。

こうしたなかで，大正4年，富山で催した展覧会にも照明を与えたい。この旅行は，たまきとの泊町での刀傷沙汰が注目されるばかりで，従来まだその詳細が十分には知られていなかった。これについては地方新聞の記事を逐一発掘した，九里文子氏による詳細な論考がある*3。夢二が地域で培ったネットワークの実態を知るうえで，富山滞在の記録は貴重な事例を提供する。

富山での展覧会には，さまざまな条件が背後に控えていた。たまきが地元出身だったことに加え，北米の大学を出て帰国し，新世代の地方名士となっていた，早稲田実業時代の親友，松田新右衛門を核とした支援網が存在したこと。『北陸タイムズ』『富山日報』などの地元新聞での報道により，趣意書などが広く頒布されたこと。従来の席画による作品頒布

■6　完成した「一力」を前に　1915

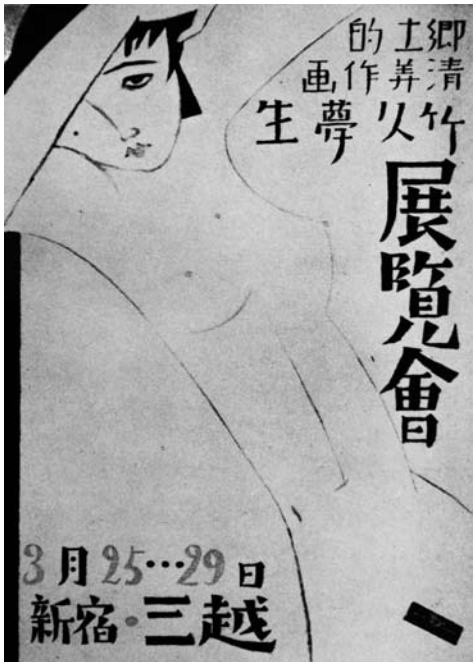
に加えて，新聞により一般市民への参観呼びかけ，宣伝による販路拡大など。

小川温泉と，富山市内，渦巻亭とでの展覧には，さまざまな工夫が凝らされていた。とりわけ，富山来訪にさきがけて京都で制作された《一力》《炬燵》は，夢二の生涯で最大の大作となる六曲一双の屏風だが，これが富山での展示にメリハリをつけるための目玉だったことは明らかだろう■6。

色紙大の売絵頒布が主目的とはいえ，売り上げを伸ばすためには，展覧会の客寄せに話題をまく代表作が効果的なことも計算されていた。そこには，第1回の京都での個展が似た寸法の色紙大の作品ばかりの展示で，画龍点晴に欠けたことへの反省もあっただろう。また，官展アカデミーの展覧会が，商品見本のような大作主義の傾向をみせていたことへの，夢二としての対抗手段が意識されてもいたはずである。

富山の事例は，その前年の岡山での事例と比較するに値する。とかくわれわれは，雑誌『白樺』や，京都を中心とする国画創作協会を範例とみなして美術史の主流や見取り図を描きがちである。たしかに東京や京都の動向が地方に先鞭をつけたのは事実だろう。だがそれが全国にひろがる流通網に支えられた現象だったことも忘れてはなるまい。上野の東京美術学校中心史観，あるいは京都の市立画学校中心史観を相対化する視野も，夢二の商業戦略からみえてくるのではなかろうか。

例えば，ジュリア・サピンや廣田一らが研究したとおり，近代京都を代表する日本画家の竹内栖鳳も，最初は高島屋の意匠部で友禅下絵を準備する図案職人として出発した。後年栖鳳は，日本画家として文化勲章を受賞することとなる。だが，栖鳳の成就した達成点を当然の帰結として，そこからその生涯を振り返ると，藝術家が生きた時代の実相，急速な世相の変貌と，美術の社会的な価値をめぐる



■7　渡米告別展のポスター　1931

座標軸の推移を見逃すこととなりかねない。東京の三越百貨店では杉浦非水ほかの商業美術，ポスターでの活躍が始まる時代である。夢二を「大正ロマン」といった謳い文句に閉じ込めると，同時代の大衆文化・マス・メディア勃興の動向を見落とすことになる■7。

国際的文脈のなかでの夢二

夢二現象は，ひとり日本列島内部の現象ではない。心酔者のなかでも著名な中国人としては，豊子愷（1898-1975）は落とせまい。豊は「漫画家」，随筆家として知られるが，20年代初めに短期間日本滞在を果たした後，上海を中心に，魯迅らの傍らで活躍し，晩年には『源氏物語』の中国語訳を達成した。夢二から豊子愷への系譜は，青木茂氏が本学会に寄せられたメッセージにも触れるとおり＊4。夢二の寂寥感漂う抒情は，民国期の上海で活躍した豊にあっては，社会の矛盾にたいするペーソスあり，温かみある風刺へと変奏された。魯迅は晩年に社会意識を先鋭にし，ドイツの反戦女流版画家，ケーテ・コルヴィッツに接近する。第一次世界大戦がその背景をなすが，青島で捕虜となり徳島の収容所に収まったドイツ人には，木下杢太郎の友人で，ルンペンを気取ったフリッツ・ルンプもいた。ルンプは歌麿らの浮世絵研究でも知られたが，また日本で浮世絵技法を習得した藝術家にはエミール・オルリックがあげられる。小泉八雲ことラフカディオ・ハーンの独訳本の装丁などを手掛けており，ドイツ語圏におけるジャポニズムとゼセッションとの交叉を証言する。このような同時代のドイツと日本との版画・挿絵のうえでの交流も見逃せない。夢二自身の最晩年のドイツ旅行も，こうした下地のうえに描かれる航跡となるからだ。夢二の駒絵の構図には，日本趣味の里帰りの痕跡も顕著である。北斎や晩年の広重は近景と遠景とを誇張して対比する構図を多用するが，これは，北米ではホウ

■8　関東大震災スケッチより　1923

イスラーの弟子筋にあたるアーサー・ダウが技法化して教科書に仕立て直し，日本流の「ノータン」（濃淡）構図と，アーツ＆クラフツ運動のデザインとを弁証法的に統合する。それは第一次世界大戦後のドイツ語圏へも影響を与え，さらにエイゼンシュテインの映画の駒割りにまで派生してゆく。手塚治虫の初期の駒割り，『新宝島』の冒頭などには，ウォルト・ディスニー映画の影響が喧伝されるが，そこには，幼少時の手塚が身近に接していたはずの，夢二経由の空間感覚も，隠し味として，それとはなしに深々と浸透していたであろう。

その夢二の社会意識はどうだったのか。1911年（明治44年），大逆事件で幸徳秋水が死刑となった折に，荒畑寒村の近傍にあった夢二も，江戸川沿いの自宅で追悼の通夜を催したことが知られる。その後の夢二は，表向きは政治運動から距離をとる。とはいえ12年後の1923年，関東大震災直後に被災地を歩いて描いた震災スケッチには，「有りもせぬことを言触らすと，処罰されます　警視庁」と墨書された立て札を，わざわざ律儀に写生している＊5，■8。「不逞朝鮮人による擾乱」という流言飛語によって社会不安を煽ったのは，実際には半島の植民地行政に関与した内務官僚であり，捏造されたデマは自警団による虐殺事件をも引き起こした。それとなく権威筋のお触れを引用してみせるという巧みな手法に頼りつつ，夢二はこの騒擾に痛烈な批判を投げかけているようだ。あるいは最晩年の昭和8年に訪問して画会を開いた台湾で，夢二は《新高山の日の出》を描く藤島武二とも再会している。夢二の「二」は，そもそも武二に肖っての命名だった。「植民地朝鮮と夢二」あるいは「日本領台湾と夢二」。その詳細を発掘して掘り下げる作業も，まだ将来の課題として残っているだろう。

夢二の生涯には，達成しようとしてそれを果たせなかった多くの計画が残された。何度となく北米滞在を計画しつつ，功を奏しない。ようやく40歳もなかばの1931年（昭和6年）にいたって北米に発つが，折からの世界大恐慌のため，北

■9　ベルリンの公園　1933

米西海岸での展覧は所期の成果を達成せずに終わる。図案の勃興期に有力者の支持や後援者からの出資を得て，恩地孝四郎らと図った「どんたく図案社」は，ほかでもない関東大震災によって実現寸前で壊滅していた。さらに1930年（昭和5年）に計画し，有島生馬，森口多里，島崎藤村らの賛助も得た榛名山美術研究所は，春名山産業美術学校の建設へと軌道修正されるものの，これも実現には漕ぎつけない。1932年（昭和7年），ベルリンでヨハネス・イッテンの画塾に招かれた夢二は，そこで日本画講習会を開く。■9 ナチスの御威光が強まるドイツで，夢二はバウハウスの動向などに，どの程度通じていたのだろうか。

2016年3月23日（4月1日改稿）

［注］

＊1　夢二国際シンポジウム「竹久夢二研究の現在：世界に向けて」岡山大学50周年記念館金光ホール，2016年3月21日

＊2　長田幹雄「夢二カードと夢二絵ハガキ」竹久夢二『思い出ぐさ』龍星閣，昭和42年，巻末解説。なお，花森安治も語ったように，一銭5厘は赤紙の召集令状の代名詞でもあった。

＊3　九里文子「富山小川温泉「竹久夢二画会」―画会から作品展覧会へ」『夢二からの贈り物』朝日町町制施行60周年記念・企画展　竹久夢二誕生130周年記念，朝日町ふるさと美術館，2014年。

＊4　「青木茂先生からのメッセージ」2016年3月14日付。シンポジウム会場で配布された。

＊5　竹久夢二『行人の画帳』龍星閣，昭和45年，図版293，327頁に複製あり。

本稿は岡山大学における国際シンポジウム席上での，コメンテイターとしての筆者の発言にもとづく。お招きいただいた，高階秀爾先生，鐸木剛道先生，お世話いただいた岡部昌幸教授，小嶋ひろみ様はじめ，関係者の皆様に御礼申し上げる。なお，竹村民郎『大正文化』（講談社現代新書，1980）は改めて読み直すに値すると思われるので参考までに付記する。

＊「竹下夢二学会」についての照会は同学会事務局：夢二郷土美術館（岡山県岡山市中区 浜2丁目1-32／TEL（086）271-1000）へ。